

適用拡大登録

区 分	殺虫殺菌剤
農 薬 名	アレスモンガレス箱粒剤
種 類 名	オキサゾスルフィル・インピルフルキサム粒剤
登 録 番 号	第 24614 号
登 録 会 社	住友化学株式会社
登 録 日	令和 4 年 11 月 9 日

登録内容

農薬登録申請書第 6 項「農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限」を以下のとおり変更し、別紙のとおりとする。

- ・作物名「稲」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」の使用時期「は種時（覆土前）～移植当日」に適用病害虫名「イネヒメハモグリバエ」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」の使用時期「は種前」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」の使用時期「は種時（覆土前）～移植当日」に使用量「高密度には種する場合は 1 k g / 1 0 a（育苗箱（3 0 × 6 0 × 3 c m、使用土壌約 5 L）1 箱当り 5 0 ～ 1 0 0 g）」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」に適用病害虫名「イネカラバエ」、使用時期「移植当日」を追加する。

使用上の注意事項

農薬登録申請書第 7 項「農薬の使用上の注意事項（8 に掲げる事項を除く。）」に(1)、(3)および(4)として以下を追加し、現行(1)以降を順次繰り下げ、別紙のとおりとする。

【追加事項】

- (1) 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用すること。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないこと。
- (3) 育苗箱（3 0 × 6 0 × 3 c m、使用土壌約 5 L）1 箱当りに乾糶として 2 0 0 から 3 0 0 g 程度を高密度には種する場合は、1 0 a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1 k g / 1 0 a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 5 0 から 1 0 0 g までの範囲で調整すること。
- (4) 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用すること。

農薬登録申請書第 9 項「生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨」の(1)を以下のとおり変更し、別紙のとおりとする。

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

別紙

【変更後】

6. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	インビルルキサムを含む農薬の総使用回数	
稲	紋枯病 イト ^ト ロイムシ イネミス ^ヅ ウムシ ニカメイチユウ フタホビ ^コ ヤガ	1kg/10a	移植時	1 回	側条施用	1 回	1 回	
稲 (箱育苗)	紋枯病 付コ ^ノ 類 ウカ類 イト ^ト ムシ イト ^ト ロイムシ イネミス ^ヅ ウムシ コブ ^ノ メカ ツマゲ ^ロ ヨコハ ^イ ニカメイチユウ フタホビ ^コ ヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前		育苗箱の 床土または 覆土に均一 に混和する。			
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)						
	イネヒメモグリハ ^エ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前					育苗箱の 覆土に均一 に混和する。
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)						
紋枯病 付コ ^ノ 類 ウカ類 イト ^ト ムシ イト ^ト ロイムシ イネヒメモグリハ ^エ イネミス ^ヅ ウムシ コブ ^ノ メカ ツマゲ ^ロ ヨコハ ^イ ニカメイチユウ フタホビ ^コ ヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種時 (覆土前) ～移植当日	育苗箱の 上から均一 に散布する。					
	高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)							
イネカラハ ^エ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植当日			育苗箱の 上から均一 に散布する。			
	高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)							

【変更後】

7. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- (1) 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用すること。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないこと。
- (2) 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (3) 育苗箱（30×60×3 cm、使用土壌約5 L）1箱当りに乾粒として200から300 g程度を高密度には種する場合は、10 a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1 kg / 10 a までとなるよう、育苗箱1箱当りの葉量を50から100 gまでの範囲で調整すること。
- (4) 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用すること。
- (5) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (6) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出しないように注意すること。
- (7) 低温での育苗条件では生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意すること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

9. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。